

## 保育士試験にかかる音楽分野の内容についての一考察

宮下 通・安彦初子

### 1. 目的

保育士養成課程を構成する教科目の見直しに伴い、科目間の関連性を一層明確化する観点から、系列「保育の表現技術」は、系列「保育の内容・方法に関する科目」に統合され、対象となる教科目「保育の表現技術」は「保育内容の理解と方法」へと見直し（名称変更）がなされた。

東北文教大学短期大学部子ども学科（以下、本学科）において、音楽科目は、「音楽A」、「音楽B」、「音楽と保育A」、「音楽と保育B」、「合唱」、「合奏」、「器楽」が開講されている。そのうち、『教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則』に基づき、幼稚園教諭二種免許状を得ようとする場合、教科に関する科目として、「音楽A」および「音楽B」の2科目2単位については必修となっている。また、『児童福祉法施行規則』に基づき、保育士資格を得ようとする場合、保育の表現技術として、「音楽A」および「音楽B」は必修、「音楽と保育A」および「音楽と保育B」そして「合奏」の3科目4単位については選択必修となっているが、本学における音楽科目も先述の見直しに伴い、独自科目として「音楽の基礎A」、「音楽の基礎B」、「音楽の応用」、「音楽の発展」を設定することとなった。

保育士養成課程の見直しに伴い、保育士試験等においても試験科目の「名称」、「対応する養成課程の教科目」および「出題範囲」を見直す方向性が示され、試験科目『保育実習理論』に対応する教科目として、現行の「保育の表現技術」は「保育内容の理解と方法」へと変更される。また、試験科目『保育実習実技』においても現行の「保育の表現技術」は「保育内容の理解と方法」へと見直しがなされ、新たな教科目となる「保育内容の理解と方法」は、「保育実践（保育内容）の実践的実技を問う内容であり、『保育実習実技』（実技試験）に位置付けることが適当」（保育士養成課程等検討会2017、p18）とし、あわせて、「実技試験の内容（音楽・造形・言語に関する技術）」については、現行の内容を維持することが適当」（同、p19）であるとの検討がなされている。

現在、保育士資格は、都道府県知事の指定する保育士を養成する学校その他の施設で所定の課程・科目を履修し卒業するか、保育士試験に合格することで取得することができ、いずれかに該当する者は、保育士の登録を受け、保育士証の交付をもって保育士として働くことができる。そのようななか、平成30年3月に開催された、平成29年度保育士養成研究所第3回研修会のシンポジウムにおいて、保育士資格の課題克服、保育の質の向上のために必要とされていることとして、「養成校で受験資格取得後の国家試験導入、法制化のあり方等、保育士資格のあり方そのものを検討する必要がある」（2018、柏女）との提言がなされた。

そこで、本研究では、保育士試験の音楽に関する内容を調査することを通して、国家試験が導入された場合の音楽面での求められている力を分析・把握し、学生が身につけるべき力とは何か、その実態をとらえつつ今後の対応策を検討することとした。

## 2. 本学の音楽科目と実習における音楽活動の実態の概要

平成30年度の音楽科目は、先述のとおり、「音楽A」、「音楽B」、「音楽と保育A」、「音楽と保育B」、「合唱」、「合奏」、「器楽」を開講している。その中で、1年前期「音楽A」および1年後期「音楽B」においては、保育の表現技術としてソルフェージュとピアノ奏法を実施している。

ソルフェージュでは、模倣による習得が基本となる子どもの歌唱活動を見据え、童謡や唱歌、わらべうた、そして手あそびうたなどといった子どもの歌を活用し、清潔な歌唱および正確な音程やリズムで歌うことや音楽理論を実施している。音楽理論においては、別にテキストを用いて、「音名」、「音階」、「階名」、「音程」、「和音」、「コード・ネーム」の各項目を修得し、2年前期「音楽と保育A」のコード奏法の実践へとつなげている。

ピアノ奏法では、初期指導が重要との視点に立ち、個別レッスンとして一人当たり15分のレッスン時間を確保できるよう、その実施に努めている。筆者ら（2017）は、平成28年度入学生100名を対象に、本学へ入学する直前までのピアノ学習歴を調査した結果、ほぼ半数にあたる49名が2年以下の経験であったと報告しているが、特に初学者については、弾く習慣を身に付けること、読譜力を高めることも目的としている。また、ピアノレッスンにおいては、平成30年度より新テキストを導入し、その効果の検証を行う必要があるが、これは別の機会に設けることとする。

これらは、2年前期「保育実習ⅡA」、同じく2年後期「教育実習Ⅱ」において、保育の現場で音楽活動の実践が図られることを念頭に置いている。筆者ら（2017）が、音楽表現活動を中心に養成機関での学びがどのように保育実習で活用されているのかについて実態調査を行った結果、特にあそびうたは授業での学びを活用している一方で、ピアノに全く触れなかったり、練習不足によって十分に活用しきれなかったりしたといった学生の報告がみられる。また、どのような力をつけたいかとの質問には、初見で弾ける力や、レパートリーを増やしたいといった回答も多くみられた。

### 3. 保育士試験

保育士試験は、筆記試験と実技試験が課されており、平成30年後期は、1日目に「保育の心理学」、「保育原理」、「児童家庭福祉」、「社会福祉」が実施され、2日目に「教育原理」、「社会的養護」、「子どもの保健」、「子どもの食と栄養」、「保育実習理論」の筆記試験が実施された。教育原理と社会的養護は30分50点満点、それ以外は60分100点満点である。筆記試験はマークシート方式で行われ、各科目において満点の6割以上の得点をしたものを合格としている。実技試験は、「音楽表現に関する技術」、「造形表現に関する技術」、「言語表現に関する技術」の3つの分野がそれぞれ50点満点と設定され、そのうち2分野を選択する。本論では、筆記試験「保育実習理論」のうち音楽に関する内容、そして、実技試験「音楽表現に関する技術」についての内容を調査する。

#### 3-1. 筆記試験

筆記試験「保育実習理論」は、全9科目のうちの1科目で、選択式20問である。例年、音楽設問は全20問のうち6問ある。実施回により内容が若干異なっており、項目と実施年の一覧を表1に示す。

（表1 筆記試験「保育実習理論」から音楽に関わる問題の内容）

問	項目	26	26再	27	27地	28前	28後	29前	29後	30前	30後
1	旋律の和声理解に基づく、適切なコード奏の選択	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	旋律の和声理解に基づく、適切なコード・ネームの選択								○		
2	反復記号の理解に基づく、正しい演奏順序の選択	○									
	音楽用語の正しい組み合わせの選択		○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	コード・ネームの理解に基づく、正しい打鍵の選択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	移調に際し、音程の理解に基づく、正しい打鍵の選択	○	○	○	○	○		○	○	○	
	移調に際し、音程の理解に基づく、正しいコードの選択						○				○
5	音程の理解に基づく、正しい調号の選択	○	○	○	○	○		○	○	○	
	楽譜の読み取りに基づく、楽曲の理解						○				○
6	教養の正誤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

問1は、「旋律の和声理解に基づく、適切なコード奏またはコード・ネームの選択」である。著作権の関係により公表されていないため、具体的な内容は不明である。

問2は、平成26年再試験以降は「音楽用語の正しい組み合わせの選択」である。内容は、日本語で示された音楽用語の意味を語群から選択する回と、その反対に、音楽用語に対する日本語の意味を語群から選択する回に分けられる。これまでに挙げられた音楽用語は、表2のとおりである。

(表2 保育士試験で取り扱われた音楽用語)

実施	問題	正答	それ以外に示された用語
H30後期 地域限定	だんだん速く	accelerando	sempre
	指ではじく	pizzicato	moderato
	とても弱く	pp	mp
	もとの速さで	a tempo	brillante
H30前期	poco a poco	少しずつ	たくさん
	Dolce	やわらかく	みんなで
	Arpeggio	和音を通常下から順次に奏する	和音をまとめて強く奏する
	D.S.	セーニョに戻る	はじめに戻る
H29後期 地域限定	さいしょの速さで	tempo primo	tempo rubato
	すぐに遅く	ritenuto	ritardando
	音と音のあいだを 切れ目なくつなぐ	legato	lento
	おわり	Fine	ff
H29前期	だんだん強く	cresc.	rit. dim.
	やや速く	allegretto	moderato adagio
	はじめにもどる	D.C.	D.S. al fine
	オクターブ上で	8va	bis. to Coda
H28後期	Andante	ゆっくり歩くような速さで	やわらかく 情熱的に
	(ブレス記号)	息つき	その音を特に強く 短く切って
	(フェルマータ記号)	十分に長く伸ばす	やさしく とても強く
	rit.	だんだんゆっくり	だんだん強く はじめにもどる
H28前期	だんだん強く	crescendo	diminuendo decrescendo
	なめらかに	legato	andante forte
	だんだんゆっくり	ritardando	a tempo dolce
	快速に	allegro	allegretto moderato
H27 地域限定	ダル・セーニョ	セーニョに戻る	はじめに戻る 終わり
	リピート	繰り返す	明るく 自然に
	ダ・カーポ	はじめに戻る	続ける カーポに戻る
	フィーネ	終わり	荘厳に さみしく
H27	スタッカート	音を短く切る	歌詞を短く切る 曲を短く切る
	アクセント	その音を特に強く	意識的に演奏する 驚きをもって
	レガート	なめらかに	はっきりと 決然と
	テヌート	その音の長さを十分にたもって	なめらかに 少し遅く
H26筆記再	すこし強く	mf	ff f
	表情豊かに	espressivo	sostenuto ad lib
	中くらいの速さで	moderato	allegro alla marcia
	最初の速さで	tempo primo	a tempo tempo rubato

平成27年および平成27年地域限定保育士試験では、音楽用語を読み、その意味を問うている。一方、それ以外の実施回においては、音楽用語の記号の理解を問うている。平成27年地域限定保育士試験と平成29年前期試験に出題された、「はじめにもどる」という意味を持つ「ダ・カーポ」の楽譜上の表記は「D.C.」であって「ダ・カーポ」と表記することは一般的でない。これは、読譜の実態に沿って、記号としての意味を理解することが求められていると考えられる。

問3は、コード・ネームの理解に基づく、正しい打鍵の選択である。1オクターヴ半の鍵盤を①から⑳まで割り振り、該当する鍵盤の組み合わせとして正しいものを選択する問題で、毎回4種類のコード・ネームが出題されている。コード・ネームは、英音名（C・D・E・F・G・A・B）の幹音に派生音（＃や♭）を含めた「根音」と、根音に付随する記号<sup>1</sup>である「コードの種類」を合わせたものを表している。これまでに出版されたコード・ネームは表3のとおりである。

（表3 コード・ネームの出題されたコード・ネーム）

実施	コード・ネーム（種類別）						
	(maj)	m	7	dim	aug	maj7、M7	m7
H30後期・地域限定	F	Dm	G7				Am7
H30前期	G ♭	Fm	C7		Faug		
H29後期・地域限定	B ♭		A7		Daug	Gmaj7	
H29前期	D ♯、A ♭	Cm	C ♯7				
H28後期・地域限定	D、E ♭		E7	Gdim			
H28前期	E ♭	Gm	E7	Adim			
H27地域限定	F	Am	D7	Fdim			
H27	B ♭	Dm	C7	Cdim			
H26筆記再試験	A ♭	Bm	A7			CM7	
H26	C ♯、G		F7		Aaug		

メイジャーとドミナント・セブンス（7）の2種類は毎回出題され、また、マイナー（m）は毎年出題されている。長調の主要三和音である主和音と下属和音、そして、属和音はいずれも長三和音で、短調の主要三和音である主和音と下属和音は短三和音、属和音は長三和音である。つまり、種々あるコードの中で、長三和音のメイジャーと短三和音のマイナーの2種、また、和声進行上、この長三和音と短三和音へ向かう傾向が強い属七の和音のドミナント・セブンスを加えた計3種が主要なコードとして出題が頻出する理由であると考えられる。そして、この3種類を中心にしながら、ディミニッシュ（dim）、オーグメント（aug）、メイジャー・セブンス（maj7、M7）、マイナー・セブンス（m7）といったコードが出題されている。また、派生音を通してシャープ（＃）やフラット（♭）の意味を理解していることも問われている。

<sup>1</sup> 付随する記号に、「m」と表すマイナー・コード（短三和音）、「7」と表すドミナント・セブンス・コード（属七の和音）、「dim」と表すディミニッシュ・コード（減三和音）、「aug」と表すオーグメント・コード（増三和音）、「maj7、M7」と表すメイジャー・セブンス・コード（長七の和音）、「m7」と表すマイナー・セブンス・コード（短七の和音）などがある。なお、付随する記号を表さないものは、メイジャー・コードである。



問4は問5と連動している回と連動していない回がある。著作権の関係により楽譜が公表されていないため、示されている楽譜がどの調であるのか確認することは不明であるが、出題文は、その楽譜を4歳児クラスが歌唱したところ、音高が高かったり低かったりすることが要因で歌いにくそうであることから、歌いやすい音域の調へ移調する内容となっている。その際、示された楽譜を指定された調へ移調する、あるいは、示された楽譜を指定された高さに上下させて移調するためには、移調をする前後で音の高さがどれだけ離れているのか、つまり、音と音の隔たりを表す音程とその単位である「度」についての理解が求められている。表4は、問題文における要因を踏まえながら、その対策としてどのように移調をしたのか、また、問4と問5が連動しているかどうかについて一覧にしたものである。

(表4 移調問題の内容)

実施	要因	対策	問4と問5の連動
H30後期・地域限定	最高音が歌いにくそう	ハ長調へ移調	なし
H30前期	高い音が歌いにくそう	長2度下の調に移調	あり
H29後期・地域限定	一番低い音が不安定で歌いにくそう	完全4度上の調に移調	あり
H29前期	歌い始めの音が低く、歌いにくそう	長2度上の調に移調	あり
H28後期・地域限定	最高音が歌いにくそう	ヘ長調に移調	なし
H28前期	一番低い音が不安定で歌いにくそう	完全5度上の調に移調	あり
H27地域限定	高音部が歌いにくそう	完全4度下の調に移調	あり
H27	一番低い音が不安定で歌いにくそう	完全4度上の調に移調	あり
H26筆記再試験	高い音が歌いにくそう	長2度下の調に移調	あり
H26	一番高い音が不安定で、歌いにくそう	短3度下の調に移調	あり

連動している回においては、問4で音程の理解に基づく正しい打鍵を選択し、問5で音程の理解に基づく正しい調号を選択する出題と推察される。調号は、1＃・2＃・3＃・1♭・2♭の5種があげられており、それぞれがどの調であるのか把握しておく必要がある。

一方、連動していない回においては、問4で調性と音程の理解に基づく正しいコードの選択を行い、問5で楽譜の読み取りに基づく楽曲の理解についての出題で、ある曲の歌いはじめのリズム譜をみて該当する曲を選択する内容である。表5は、平成30年後期および地域限定保育士試験、ならびに、平成28年後期および地域限定保育士試験において取り上げられた楽曲である。

（表5 選択肢として挙げられた楽曲）

平成30年 後期・地域限定	「大きなたいこ」（作詞：小林純一 作曲：中田喜直） 「たき火」（作詞：巽聖歌 作曲：渡辺茂） 「とんぼのめがね」（作詞：額賀誠志 作曲：平井康三郎） 「たなばたさま」（作詞：権藤はなよ 補詞：林柳波 作曲：下総皖一） 「ちいさい秋みつけた」（作詞：サトウハチロー 作曲：中田喜直）
平成28年 後期・地域限定	「春が来た」（文部省唱歌） 「やぎさんゆうびん」（作詞：まど・みちお 作曲：團伊玖磨） 「バスごっこ」（作詞：香山美子 作曲：湯山昭） 「どんぐりころころ」（作詞：青木存義 作曲：梁田貞） 「まつぼっくり」（作詞：広田孝夫 作曲：小林つや江）

子どもは耳から情報を得て、模倣することによって歌詞や旋律を覚えていく。保育者が不正確な音程やリズムで旋律を歌唱した場合でも、子どもは旋律を不正確に模倣し、それがあたかも正確なものとして覚えてしまう。楽曲の旋律やリズム等は楽譜に記載されているが、この設問では、保育者として楽譜の情報を正確に読み取る力と合わせて、様々な歌を覚えておくことが求められている。

問6は音楽に関する教養についての正誤問題である。ジャンルは音楽教育家、鍵盤打楽器、和楽器、童謡の作詞作曲者、伝統芸能、各種楽器、音楽史、など多岐にわたる。その中でも毎年取り扱われているものに「階名」を問う問題があり、内容は表6のとおりである。

（表6 階名問題）

実施	問題文	正答	調号
H30後期・地域限定	変ホ長調の階名「ソ」は、音名「変イ」である。	×(変ロ)	3 b
H30前期	ニ長調の階名「ミ」は、音名「ヘ」である。	×(嬰ヘ)	2 #
H29後期・地域限定	ヘ長調の階名「ファ」は、音名「変ロ」である。	○	1 b
H29前期	ト長調の階名「ミ」は、音名「変ロ」である。	×(ロ)	1 #
H28後期・地域限定	ヘ長調の階名「ラ」は、音名「変ロ」である。	×(ニ)	1 b
H28前期	ニ長調の階名「ファ」は、音名「嬰ト」である。	×(ト)	2 #
H27地域限定	イ長調の階名「ラ」は、音名「嬰ヘ」である。	○	3 #
H27	ヘ長調の階名「ファ」は、音名「変ホ」である。	×(変ロ)	1 b
H26筆記再試験	変ロ長調の階名「ファ」は、音名「変ホ」である。	○	2 b
H26	ト長調の階名「シ」は、音名「嬰ヘ」である。	○	1 #

それぞれの長調の主音をドと読む歌唱方法を移動ド唱法と言い、階名は主音から順次ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ドと読む。平成30年後期・地域限定試験では、変ホ長調の階名に関する正誤問題が出題されており、この場合、変ホ長調の主音である階名の「ド」は音名では「変ホ」にあたる。以下、「階名レ＝音名ヘ」、「ミ＝ト」、「ファ＝変イ」となり、階名「ソ」は音名「変ロ」となる。このことから、問題文『変ホ長

調の階名「ソ」は、音名「変イ」である。』は誤りであることがわかる。この設問では、「音名」と「階名」の整理ができているのかどうか、また、調号によって「＃＝嬰」や「♭＝変」がどの音名につくのか理解しておくことが問われている。

### 3-2. 実技試験

実技試験は、『平成30年保育士試験受験申請の手引き〔後期用〕』（2018、全国保育士養成協議会）によると、「指定保育士養成施設におけるカリキュラムとの均衡に配慮」（p27）がされて実施され、あわせて、「保育所保育指針『保育の内容』の5領域における『ねらい』および『内容』を達成するために、保育士として実践上必要な知識、技能、資質の観点から評価」（同、p27）すると記載されている。

内容は、音楽表現に関する技術、造形表現に関する技術、そして、言語表現に関する技術のなかから2分野を選択することになっており、音楽表現に関する技術については、保育士として必要な歌、伴奏の技術、リズムなど、総合的に豊かな表現ができることを求め、幼児に歌って聴かせることを想定して、課題曲を2曲弾き歌いする。

かたつむり

文部省唱歌

D A

で ん で ん む し む し か た つ む り

5 D A7 D

お ま え の あ た ま は ど こ に あ る

9 D A D

つ の だ せ や り だ せ あ た ま だ せ

（図1 受験申請の手引きに掲載されている楽譜のイメージ）

弾き歌いについて、演奏はピアノ、ギター、アコーディオンのいずれかで演奏するように指定され、ピアノ以外の演奏については受験者が試験会場に持ち込むことが求められている。楽譜は持ち込みが認められ、ピアノの伴奏には市販の楽譜を用いるか、受験申請の手引きに掲載された楽譜のコード・ネームを参照して編曲したものを用いる。ちなみに、図1は受験申請の手引きに掲載されている楽譜のイメージで、筆者が楽譜作成ソフトで写譜をしたものである。

また、ギター、アコーディオンで伴奏する場合には、添付楽譜のコード・ネームを



尊重することとされている。なお、いずれの楽器とも、前奏・後奏を付けてもよく、歌詞は1番のみとし、移調が認められている。

なお、過去の課題曲は、表7のとおりである。

（表7 音楽実技における課題曲）

実施	曲名	拍子	調	音域	使用コード
			上段：調性 下段：調号	上段：最高音 下段：最低音	上段：主要な和音 下段：その他の和音
H30	おかあさん	4/4	ニ長調 (2♯)	2点ニ 1点ニ	D, A7 Em, F♯m, Bm
	アイアイ	4/4	ハ長調 (0)	2点ニ 1点ハ	C, F, G7 D7
H29	こいのぼり	3/4	ニ長調 (2♯)	2点ニ 1点ニ	D, G, A, A7
	一年生になったら	4/4	ヘ長調 (1♭)	2点ニ 1点ハ	F, C7 Gm7, Dm7
H28	かたつむり	2/4	ニ長調 (2♯)	2点ニ 1点ニ	D, A, A7
	オバケなんてないさ	4/4	ト長調 (1♯)	2点ニ 1点ニ	G, D7 Adim, A7

課題曲は毎年2曲挙げられており、平成29年の「こいのぼり」が3拍子形の4分の3拍子であるほかは、2拍子形の4分の2拍子あるいは4分の4拍子であった<sup>2</sup>。

調性はすべて原調で、調号は2♯～1♭であった。調号に関する読譜指導について、小学校では第5学年及び第6学年において「ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能」（2017、文部科学省）とあり調号はつかない。中学校になり、指導計画と内容の取り扱いにおいて「読譜の指導に当たっては、小学校における学習を踏まえ、♯や♭の調号としての意味を理解させるとともに、3学年間を通じて、1♯、1♭程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏<sup>3</sup>に慣れさせるようにすること」（2017、文部科学省）とある。仮に、高校時の芸術教科で音楽を選択しなかったら、調号の理解による読譜は1♯、1♭で修了していることになり、課題曲に設定されている2♯のニ長調については、取り組みの困難が予想される<sup>4</sup>。

<sup>2</sup> 平成27年以前の『保育士試験受験申請の手引き』を確認することができなかったが、全国保育士養成協議会のホームページから「過去の試験問題」を閲覧すると、平成27年の課題曲は「海」および「ちびっか・ぶーん」、平成26年は「おつかいありさん」および「おへそ」、平成25年は「めだかの学校」および「そうだったら いいのにな」であった。このなかで、3拍子形の楽曲は「うみ」である。

<sup>3</sup> 視唱と視奏とは、楽譜を見て、音高、リズム、音程、フレーズなどを把握して、歌ったり演奏したりすることを意味し、記譜とは、音楽を楽譜で表すことを意味している（2017、文部科学省）。

<sup>4</sup> 高等学校において、『(中学校学習指導要領では)読譜の指導に当たっては、小学校における学習を踏まえ、♯や♭の調号としての意味を理解させるとともに、3学年間を通じて、1♯、1♭程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏に慣れさせるようにすること』と示している。それを踏まえ、『音楽I』においては、生徒の特性等を考慮し、視唱と視奏及び読譜と記譜の指導を適切に行うことが必要である」（2018、文部科学省）と1♯、1♭以上については言及していない。

#### 4. まとめ

筆者ら（2017）は、本学平成28年度入学生100名の高校3年間における音楽の授業を履修した年数を調査した結果、3年間履修した学生は31名（31%）、2年間履修した学生は19名（19%）、1年間の履修は27名（27%）、音楽を履修したことの無い学生および無回答は23名（23%）であったと報告しており、このことから、少なくとも4分の1程度の学生は、調号が1つ（1♯、1♭）の読譜しかしていない可能性がある。また、那須（2018）は、本学平成29年度入学生を対象に入学時の読譜力の実態調査を行い、音符の高低に対して音符の長さの認識が薄いことが伺われた点、楽語・表音記号については、同じ意味を持つものでも言葉に比べ記号の方が学生の楽譜としての優位性が高かった点を報告していた。これらの報告<sup>5</sup>を照らし合わせつつ、保育士試験の内容および学生が身につけるべき力について、その内容の検討を行った。

保育士試験における筆記試験では、音楽用語、音程ならびに音階、そしてコード・ネームのそれぞれについて、ほぼ毎回出題されている。

音楽用語は強弱や速度、発想や演奏方法など、演奏のためのいろいろな情報が込められており、保育者を目指す者が音楽的資質を高めるにあたって、音楽用語はその一助となるものである。

音程ならびに音階は、移調の内容も含まれているが、三宅（2014）は「子どもたちの発達過程をよく認識して、無理のないように気を配る」ことを留意点として保育することが求められると述べている。子どもの声域については多くの研究がなされているが、5歳児の声域は概ね最高音が2点ハで最低音がイである。子どもが歌いにくくて少し高くしたいときや、低くしたいときに移調を行うことで、無理のない活動が期待できる。子どもたちの発達過程を考慮しながら必要に応じて移調などの措置を図るためにも、音程と音階を理解しておくことが前提となる。

コード・ネームを利用してコード奏を行うことについて、長谷川（2014）は、「原譜の伴奏と比べると、非常に簡素で音楽的表現に乏しい響きであるが、伴奏としてはこれでも十分成立する。むしろ、弾けない者が間違えて不協和音を鳴らし続けたり、たびたび弾き直しするよりは、このようなシンプルな伴奏でメロディを正確に弾いたほうが音楽理論上も問題はなく、子どもに音楽的な悪影響を及ぼすこともない。」と述べており、原曲の伴奏を弾くのにかなりの技能がいる場合に有効である。

『保育所保育指針解説』（2018、厚生労働省）において、第2章3（2）オ（イ）⑥「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」のなかに、「保育士等などの大人が、歌を歌ったり楽器の演奏を楽しんだりしている姿に触れることは、子どもが音楽に親しむようになる上で、重要な経験である」と示しているが、これらの音楽理論の理解をもとに実践へと目を向け、よりいっそう音楽やリズムに合わせて楽しんだりしている姿を示し子どもと音楽活動を行うことができれば、子どもの感性はよりいっそう豊かになるものと期待でき、本学におけるソルフェージュは、保育士試験における筆記試験の頻出問題である音楽用語、音程なら

<sup>5</sup> なお、2つの報告は、読譜に関して、入学時の実態調査において調号の理解についての項目を設けていないことや、いずれも単年度の調査となっていることから、今後、調査内容の検討と数年にわたる学生の実態調査を行う必要がある。

びに音階、そしてコード・ネームのそれぞれについて、音楽科目の実態の概要で述べているように、その内容をとらえている。

また、実技試験における課題曲の調号は、＃も♭も最大で2つである。高校時に音楽を履修していない約4分の1の学生が1＃、1♭の調号の理解で修了しているとして、さらに、ピアノ学習歴が2年未満である学生が約半数であることを考慮すると、2＃、2♭の楽曲に取り組むのは困難が予想されることから、音楽理論とピアノ実技を連動させて学生の調号理解につながるよう、内容の検討を図る必要がある。また、大学におけるコードの学びは1年後期にその構造を理解し、2年前期にコード弾きによる弾き歌いを実施している。長調の楽曲を教材として、その調に応じたコード奏を実施しており、主要三和音と属七の和音の計4種類を抑えておくと、およそその曲が演奏可能になることを伝えているものの、コードの種類としてはメイジャー・コードとセブンス・コードの2種のみで、マイナー・コードについての取り扱いが十分ではなかった。子どもの曲に短調の作品が少ないことも要因の一つではあるが、短調における主要三和音に含まれるマイナー・コードを取り扱う必要があることが明らかとなった。

保育士試験の内容と本学学生の学びに大きな開きは見られなかったものの、指導内容に一部不足している点が見られたことから、内容の検討ならびに教材の精選を図っていきたい。また、養成校において受験資格取得後の国家試験導入が実施される際には、試験内容の見直しも考えられることから、今後の動向も注目していきたい。

## 引用文献、参考文献

- 保育士養成課程等検討会（2017.12）「保育士養成課程等の見直しについて～より実践力のある保育士の養成に向けて～（検討の整理）（案）」『第9回保育士養成課程等検討会』資料1-1.
- 柏女霊峰（2018）「保育士資格の現状と保育士養成課程」シンポジウム資料1、p2.
- 水崎誠（2018）「I 4（4）幼児の声域」井口太（編）『最新・幼児の音楽教育』pp30-32.
- 水崎誠（2013）「幼児の声域研究の動向」『全国大学音楽教育学会研究紀要』第24号、p32.
- 三宅啓子（2014）「第2章子どもの音楽的発達と音楽環境」谷田貝公昭（編）『実践保育内容シリーズ 音楽表現』pp20-31.
- 長谷川恭子（2014）「第14章いろいろな伴奏法」谷田貝公昭（編）『実践保育内容シリーズ 音楽表現』pp146-156.
- 厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』pp115、171、274.
- 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説音楽編』pp129-130.
- 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領解説音楽編』pp112-113.
- 文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領解説芸術（音楽、美術、工芸、書道）編 音楽編 美術編』p58.
- 宮下通・須藤円・佐藤佳子・長岡美穂・吉野直子（2018）「音楽歴とレッスンノートから見る学生の自学習の傾向」『東北文教大学・東北文教大学短期大学部教育研究』

第8号、pp37-42.

宮下通・吉野直子（2017）「保育実習における音楽表現活動の実態」『東北文教大学・東北文教大学短期大学部教育実践研究』第8号、pp43-51.

那須一彦（2017）「保育者をめざす学生の読譜力について」『東北文教大学・東北文教大学短期大学部教育実践研究』第8号、pp27-35.

一般社団法人全国保育士養成協議会（2018）「過去の試験問題」

<http://hoyokyo.or.jp/exam/pasttest/index.html>（2018.12.10閲覧）

一般社団法人全国保育士養成協議会（2018）『平成30年保育士試験受験申請の手引き』pp28、30.

[https://www.hoyokyo.or.jp/h30\\_guidance\\_2.pdf](https://www.hoyokyo.or.jp/h30_guidance_2.pdf)（2018.12.14閲覧）

一般社団法人全国保育士養成協議会（2017）『平成29年保育士試験受験申請の手引き』pp30、32.

[https://www.hoyokyo.or.jp/h29\\_guidance\\_2.pdf](https://www.hoyokyo.or.jp/h29_guidance_2.pdf)（2018.12.14閲覧）

一般社団法人全国保育士養成協議会（2016）『平成28年保育士試験受験申請の手引き』pp23、25.

[http://www.hoyokyo.or.jp/files/h28\\_guidance.pdf#search=%27%E4%BF%9D%E8%82%B2%E5%A3%AB%E8%A9%A6%E9%A8%93+%E7%94%B3%E8%AB%8B%E3%81%AE%E6%89%8B%E5%BC%95%E3%81%8D+28%27](http://www.hoyokyo.or.jp/files/h28_guidance.pdf#search=%27%E4%BF%9D%E8%82%B2%E5%A3%AB%E8%A9%A6%E9%A8%93+%E7%94%B3%E8%AB%8B%E3%81%AE%E6%89%8B%E5%BC%95%E3%81%8D+28%27)（2018.12.14閲覧）

田中ナナ・中田喜直（1957）「おかあさん」全国大学音楽教育学会（編著）（2013）『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌－唱歌童謡140年の歩み』p97.

相田裕美・宇野誠一郎（1962）「アイアイ」全国大学音楽教育学会（編著）（2013）『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌－唱歌童謡140年の歩み』pp120-121

近藤宮子（1931）「コイノボリ」全国大学音楽教育学会（編著）（2013）『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌－唱歌童謡140年の歩み』p46.

まど・みちお・山本直純（1966）「一ねんせいになったら」全国大学音楽教育学会（編著）（2013）『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌－唱歌童謡140年の歩み』pp152-153.

文部省唱歌（1911）「かたつむり」全国大学音楽教育学会（編著）（2013）『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌－唱歌童謡140年の歩み』p18.

槇みのり・峯陽・越部信義（1966）「おばけなんてないさ」全国大学音楽教育学会（編著）（2013）『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌－唱歌童謡140年の歩み』pp156-157.

---

i 執筆の担当は、「1. 目的」「2. 本学の音楽科目と実習における音楽活動の実態の概要」「4. まとめ」が宮下、「3. 保育士試験」「3-1. 筆記試験」「3-2. 実技試験」が安彦である。